

健康寿命延伸のための 社会医学的対策

疾病発症のリスク判断

予防医学

社会システムの完備

社会システムの完備

- 1、1000円タバコ？
- 2、ポテトチップスに税金をかける？

などなど

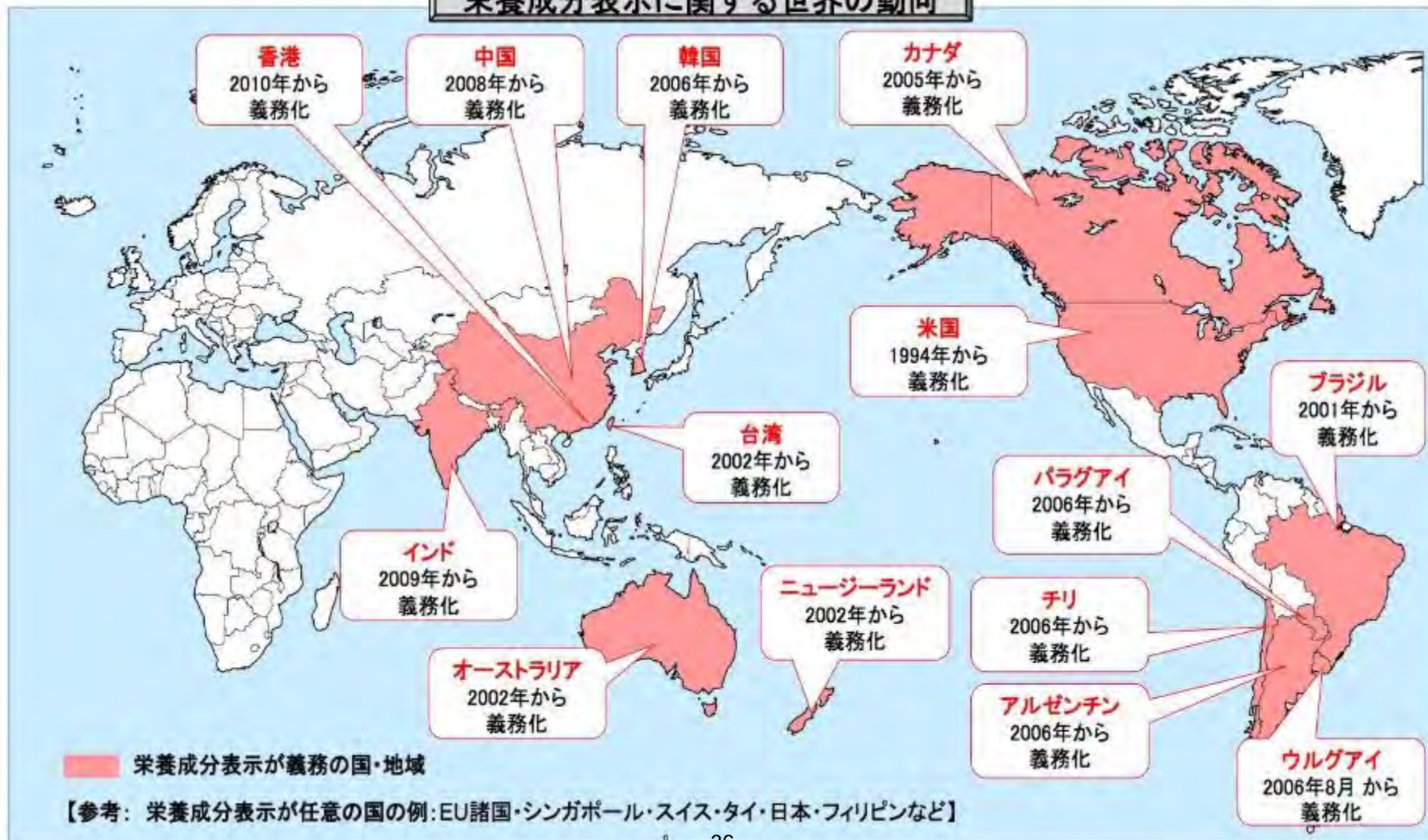
大切なことは知識を共有すること
知的食育・体育

世代間で知恵を継承していくこと
日本の疫学に則った教育

栄養成分表示をめぐる国際的な動向 ①

深刻な慢性疾患問題を抱える米国では、1994年に栄養成分表示が義務化され、その後、ブラジル(2001年)、オーストラリア・ニュージーランド(2002年)、カナダ(2005年)などの各国が続いている。また、アジアでも、台湾(2002年)、韓国(2006年)、中国(2008年)、インド(2009年)などの国や地域で栄養成分表示が義務化されている。

栄養成分表示に関する世界の動向



栄養成分表示をめぐる国際的な動向 ②

	栄養成分表示が義務の国・地域の例							栄養成分表示が任意の国の例					
	米国 カナダ	韓国	アルゼンチン ウルグアイ パラグアイ ブラジル	香港	台湾	オーストラリア ニュージーランド	中国	日本	フィリピン	シンガポール	タイ	EU諸国	
												基本	推奨 (精類・飽和脂肪酸・食物繊維・ナトリウムを表示の場合)
エネルギー 炭水化物 たんぱく質 脂質 ナトリウム	義務	義務	義務	義務	義務	義務	義務	必須*	必須* (ナトリウムは任意)	必須* (ナトリウムは任意)	必須*	必須* (ナトリウムは任意)	必須*
飽和脂肪酸	義務	義務	義務	義務	義務	義務	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	必須*	任意 (基準あり)	必須*
トランス脂肪酸	義務	義務	義務	義務	義務	任意 (基準あり)	任意 (基準なし)	任意 (基準なし)	任意 (基準なし)	任意 (基準あり; 検討中)	任意 (基準なし)	任意 (基準なし; 検討中)	任意 (基準なし; 検討中)
コレステロール	義務	義務	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	必須*	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)
糖類	義務	義務	任意 (基準あり)	義務	任意 (基準あり)	義務	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	必須*	任意 (基準あり)	必須*
食物繊維	義務	任意 (基準あり)	義務	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	必須*	任意 (基準あり)	必須*
ビタミンA ビタミンC カルシウム 鉄	義務	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)	必須*	任意 (基準あり)	必須* (ビタミンCは任意)	任意 (基準あり)	任意 (基準あり)

* 栄養成分の強調表示をする場合には、表示が必須である。

【注釈1】(基準あり): 強調表示する場合の基準がある。(基準なし): 強調表示する場合の基準がない。

【注釈2】(検討中): 強調表示する場合にトランス脂肪酸の表示を必須項目とするかどうか検討中である。

表示すべき栄養成分の優先度の見直し

(別紙)

- 【選定基準】
1. 我が国の健康・栄養政策において、国民の健康の保持増進に影響を与えている栄養成分として、目標が掲げられている栄養成分のうち、国民の栄養摂取状況から問題があると考えられるもの
 2. 健康・栄養に関する基本的な知識として、全ての国民が知っておくべきであると考えられるもの
 3. 国内外の科学的根拠をもとに、今後、検討する必要があると考えられるもの

現在の栄養表示

*一般表示事項のみ

1	エネルギー
2	たんぱく質
3	脂質
4	炭水化物
5	ナトリウム

※一般表示事項
食品単位当たりで、
熱量、たんぱく質、
脂質、炭水化物、
ナトリウムが記載
された表示

見直し案

*:一般表示事項/無印:一般表示事項以外の成分/()現行の表示順

___(下線): 栄養摂取状況から欠乏や過剰等問題があると考えられたもの

1	*エネルギー (1)	適正体重の維持が推奨される中、各種疾病のリスクファクターである肥満について、特に20-60歳代の男性肥満者の割合は増加傾向が鈍化。
2	*ナトリウム (5)	高血圧予防の観点で我が国の健康・栄養政策として重要度が高い栄養成分であるが、目標量以上をとっている人が7割以上存在。
3	*脂質 (3)	脂質のとりすぎは動脈硬化等心疾患のリスクを促進することから、適切な脂肪エネルギー比率での摂取が推奨されるが、目標量を超える人が約半数存在。
4	*炭水化物 (4)	最も主要なエネルギー源であり、摂取割合が最も多い。
5	*たんぱく質 (2)	人の体の組織を構成する主要な栄養素である。

~今後、検討が必要なもの~

ビタミン・ミネラル類	生体の機能の維持や生活習慣病の予防には、ビタミン・ミネラルの適切な摂取が必要。
*食物繊維	生活習慣病の予防に重要と考えられる栄養素のひとつであり、目標量をとれていない人が半数以上存在。
糖類	WHOでは、遊離糖類の摂取制限を推奨。
飽和脂肪酸	WHOでは、飽和脂肪酸の摂取低減や不飽和脂肪酸への切り替えを推奨しているが、適正範囲を超える人が半数近く存在。
トランス脂肪酸	トランス脂肪酸のとりすぎは心疾患のリスクを促進。
コレステロール	血中コレステロールが心疾患のリスクを高める可能性。